

2) 訓練車両の走行に伴うロードキルの状況

(1) 調査期間

本調査の実施期間を表 6.1.4-7 に示すとおり。

表 6.1.4-7 調査期間一覧

地区/季節	春季	夏季	秋季	冬季
G 地区	平成 30 年 5 月 2 日	平成 30 年 9 月 12 日	平成 30 年 11 月 19 日	平成 31 年 1 月 31 日
G 進入路	平成 30 年 5 月 2 日	平成 30 年 9 月 12 日	平成 30 年 11 月 19 日	平成 31 年 1 月 31 日
H 地区	平成 30 年 5 月 2 日	平成 30 年 9 月 12 日	平成 30 年 11 月 19 日	平成 31 年 1 月 31 日
N-1 地区	平成 30 年 5 月 2 日	平成 30 年 9 月 12 日	平成 30 年 11 月 19 日	平成 31 年 1 月 31 日
N-4 地区	平成 30 年 4 月 20 日	平成 30 年 7 月 25 日	—	—
工事用道路	平成 30 年 5 月 2 日	平成 30 年 9 月 12 日	平成 30 年 11 月 19 日	平成 31 年 1 月 31 日
既存道路	平成 30 年 5 月 2 日	平成 30 年 9 月 12 日	平成 30 年 11 月 19 日	平成 31 年 1 月 31 日

注) —は調査終了を示す。

(2) 調査方法

訓練用車両によるロードキルの確認は、工事中に設置した注意標識等の環境保全措置の効果検証を行う目的等から実施した。

調査は訓練車両の通行経路において、徒歩及び車両移動により目視での確認を行った。道路上での轢死や横断個体を確認した場合、確認位置、種名、個体数について記録した。

(3) 調査地点

調査地点は、図 6.1.4-7 に示す訓練車両の通行経路において実施した。

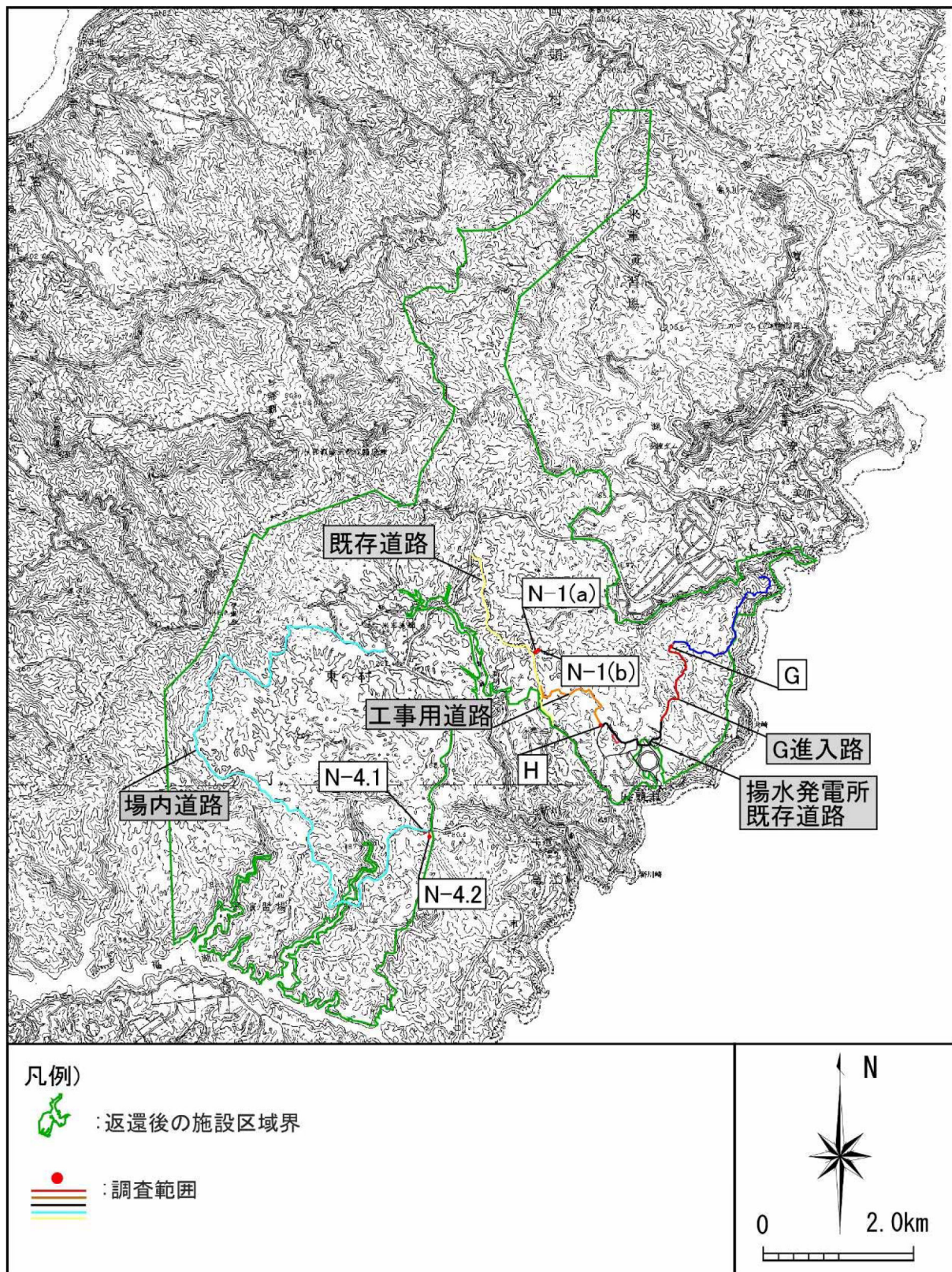


図 6.1.4-7 訓練車両の走行に伴うロードキルの調査範囲

(4) 調査結果

ロードキル及び道路横断個体の確認状況を表 6.1.4-8 に、確認位置を図 6.1.4-8、図 6.1.4-9 に示した。

ロードキルの確認は、アオカナヘビ、ガラスヒバア、、
の4種13個体であった。確認地点は散発的であり、ロードキルの集中するヶ所は確認されなかった。

横断個体等の確認は、鳥類やトカゲ類を中心に17種58個体が確認された。

表 6.1.4-8 ロードキル及び横断個体等の確認状況

No.	種名	ロードキル							横断個体等											
		N-4地区	N-1地区	既存道路	G地区	G進入路	H地区	工事用道路	その他	計	N-4地区	N-1地区	既存道路	G地区	G進入路	H地区	工事用道路	その他	計	
1																				
2											1		1					1	1	3
3																			1	1
4																		2	2	4
5																	1		1	1
6											2									2
7																		1		1
8											2						4		6	6
9													1							1
10																	1		1	1
11													2				3	2	7	7
12											3							2	5	5
13														4				1	5	5
14											1		7				1		9	9
15										1	1		3	2				1	6	6
16			1							1										
17			2		1		1			4	8			1				2	3	3
18					1				2		3			1	1					2
	種類数	2	0	2	0	1	0	1	2	4	5	0	7	0	3	0	8	8	17	
	個体数	3	0	2	0	1	0	2	5	13	9	0	16	0	7	0	14	12	58	



図 6.1.4-8 ロードキル及び横断個体の確認地点(N-4)

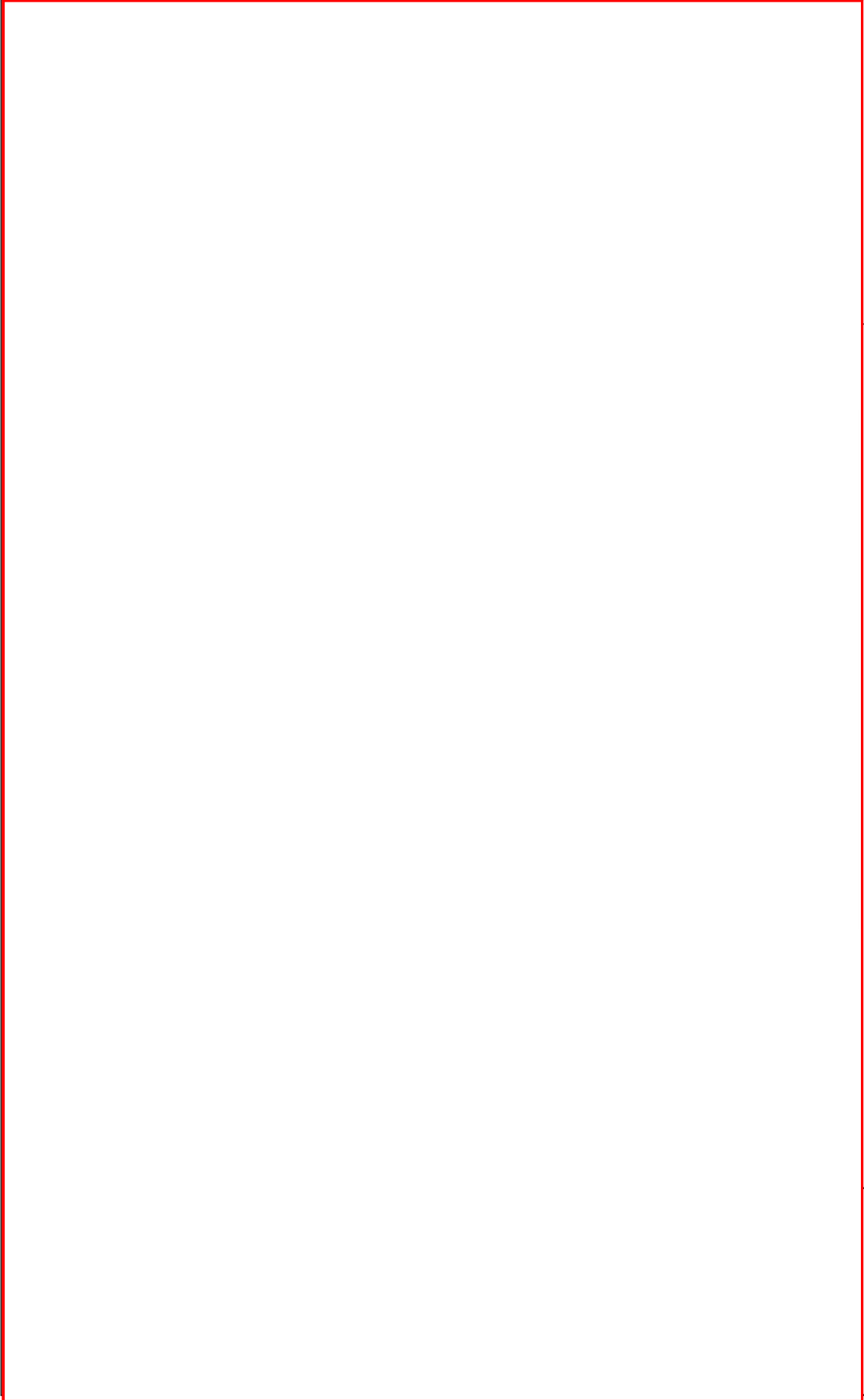


図 6.1.4-9 ロードキル及び横断個体の確認地点

3) ヘリコプター飛行時の騒音及び貴重な鳥類、カエル類の繁殖状況

(1) 調査期間

本調査の実施期間を表 6.1.4-9 に、繁殖場所における騒音の測定日を表 6.1.4-10 に示した。

表 6.1.4-9 調査期間一覧

地区	鳥類繁殖時期	両生類繁殖時期
G地区	平成30年4月24日、5月10日、5月23～24日、6月19～22日	春季：平成30年4月24日、5月10日、5月23～24日、6月19～22日 冬季：平成30年12月25日～27日、平成31年1月31日～2月2日
H地区	平成30年4月24日、5月10日、23日、6月25日～28日	春季：平成30年4月24日、5月10日、23日、6月25日～28日 冬季：平成30年12月19日～21日、平成31年2月5日～7日
N-1地区	平成30年4月26日、5月11日、24日～25日、6月12～15日	春季：平成30年4月26日、5月11日、24日～25日、6月12～15日 冬季：平成30年12月25日～27日、平成31年2月5日～7日
N-4地区	平成30年4月18日、5月17日、年6月5～8日	春季：平成30年4月18日、5月17日、年6月5～8日

表 6.1.4-10 騒音測定実施日

地区	鳥類繁殖時期	両生類繁殖時期
N-4地区	鳥類：平成30年6月26日	カエル類：平成30年6月26日

注)騒音測定は、米軍から許可が得られたN-4地区の春季調査のみ実施した。なお、他の地区や時期については繁殖状況調査を行っており、それによりヘリコプター騒音による影響の有無について把握した。

(2) 調査方法

a) 鳥類

鳥類は、目視や鳴き声により産卵や営巣などの繁殖行動を観察した。鳥類の繁殖等を観察した場合は、確認場所やその状況を記録した。繁殖の判定は、「環境省第6回自然環境保全基礎調査（環境省編、平成16年）」の区分に準じた。

b) カエル類

カエル類は、目視や鳴き声等により繁殖行動を確認した。繁殖場等が確認された場合は、確認場所やその状況を記録した。繁殖は、産卵行動や卵、幼生、小型幼体の確認をもって判定した。繁殖可能性は幼体の確認で判定した。

c) 騒音測定

事業実施区域直近の貴重鳥類及びカエル類の繁殖場において騒音の測定を実施した。測定は、騒音レベル測定方法(JIS Z 8731)に基づき、地上 1.2m の高さに騒音計を設置し、6:00～22:00(毎正時 10 分間)の騒音測定を行い、普通騒音計にメモリされた記録についてパソコンを用いて処理した。データの整理・解析は、一次処理として普通騒音計にメモリされた記録をパソコンに取り込み、等価騒音レベル(LAeq)と時間率騒音レベル(L5、L50、L95)を統計処理で算出し、二次処理として作表、解析を行った。

繁殖場の騒音については測定が許可された N-4 地区のみ実施した。なお、他の地区や時期については繁殖状況調査を行っており、それによりヘリコプター騒音による影響の有無について把握した。

(3) 調査地点

調査は図 6.1.4-10～図 6.1.4-13 に示す着陸帯の中心から半径約 250m(N-1 は 2 連のため約 400m)の範囲で実施した。

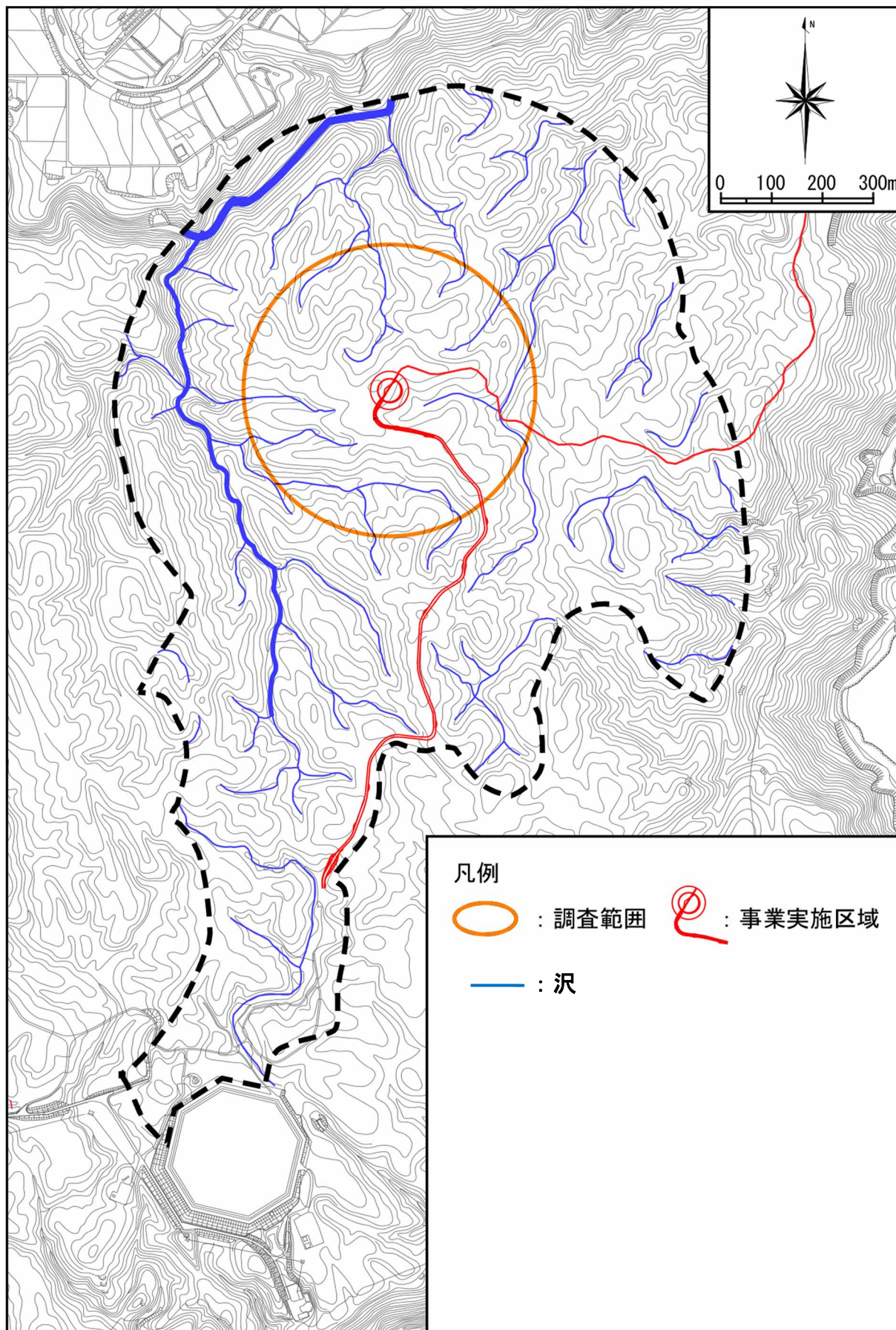
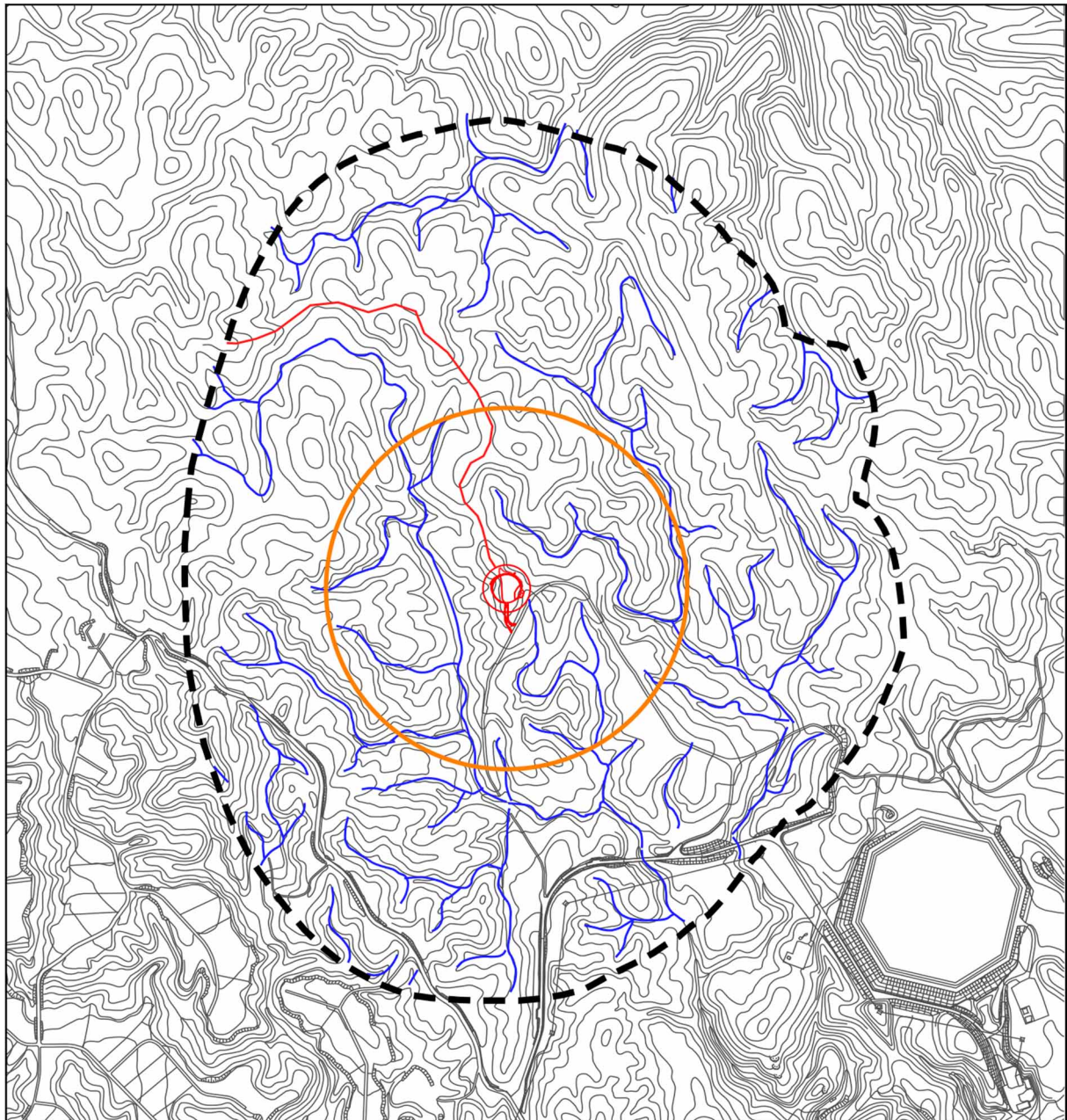


図 6.1.4-10 貴重な鳥類・カエル類の繁殖状況調査地点(G地区)



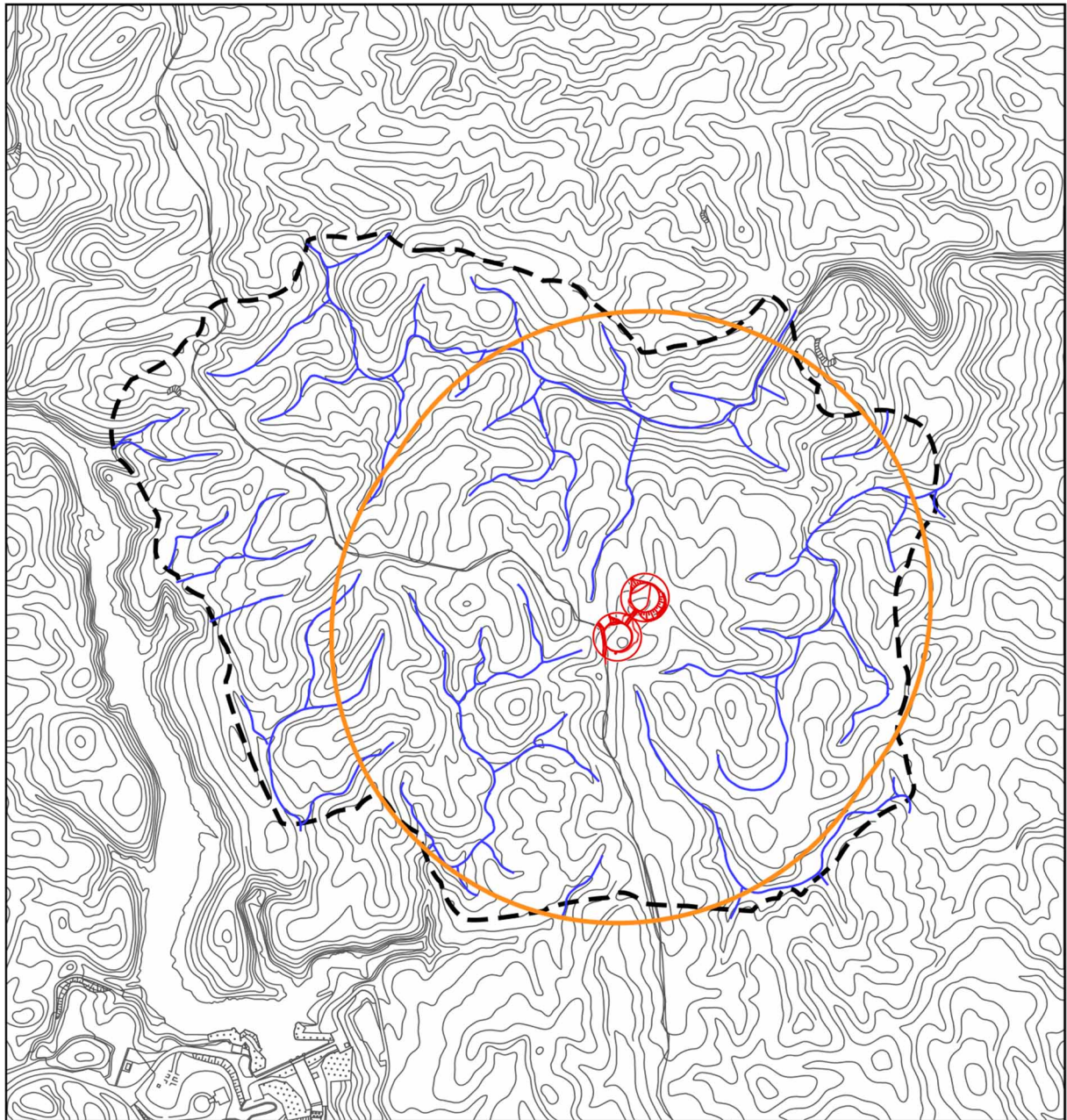
凡例

 : 調査範囲
  : 事業実施区域
  : 沢



0 100 200 300 400m

図 6.1.4-11 貴重な鳥類・カエル類の繁殖状況調査地点(H地区)



凡例

 : 事業実施範囲
  : 調査範囲
  : 沢



0 100 200 300 400m

図 6.1.4-12 貴重な鳥類・カエル類の繁殖状況調査地点(N-1 地区)

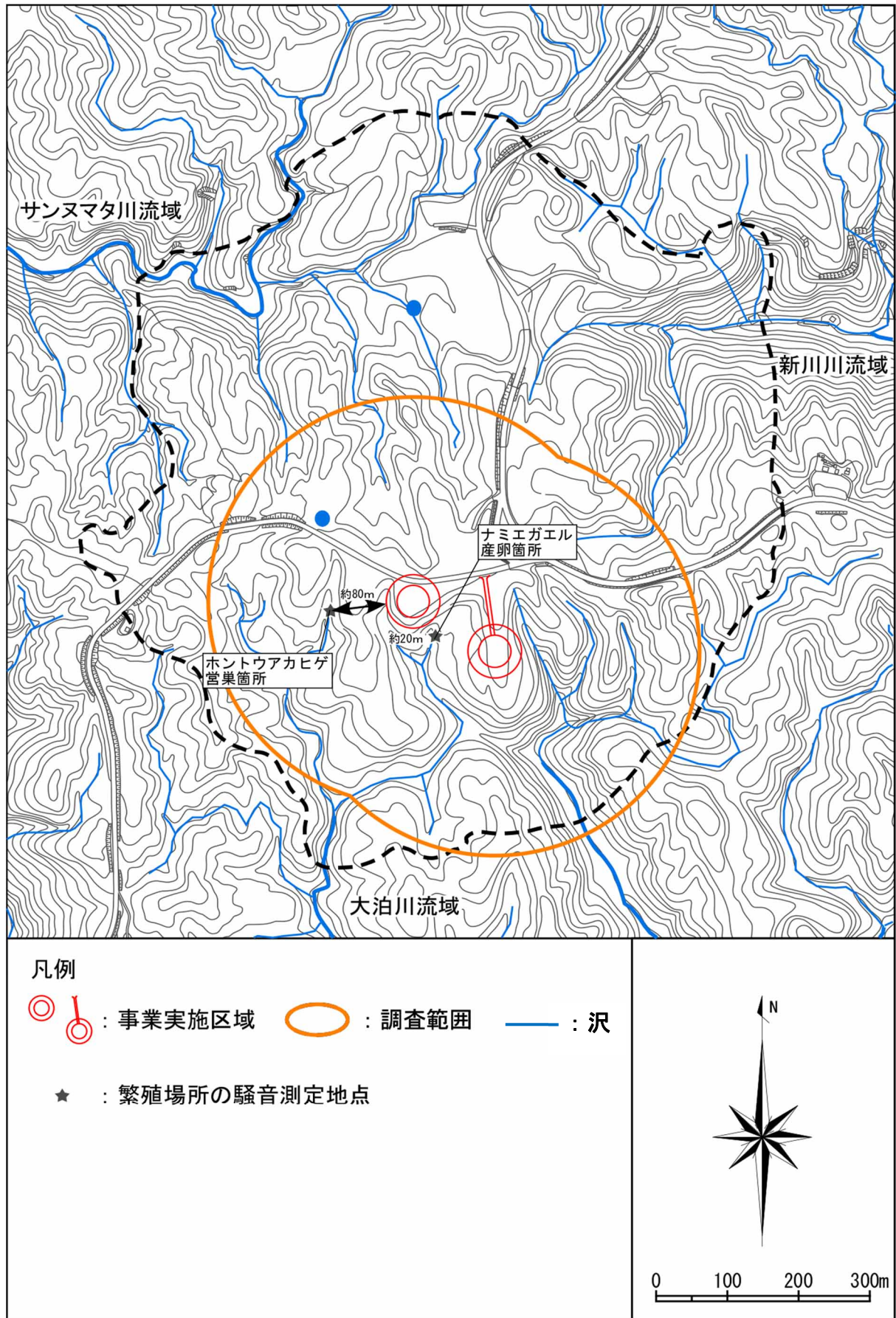


図 6.1.4-13 貴重な鳥類・カエル類の繁殖状況調査地点(N-4 地区)